

提案実現化モデル事業

プロジェクト概要

2008

2009

2010

「八潮街並みづくり100年運動」では、フィールドワークから得られた八潮にある利用可能な材料や八潮らしい敷地などに、様々な提案を行い実現化してきた。市民から疎遠となってしまった用水路沿いの休憩スペースや、また工場の活動が八潮の市民にもっと受け入れられるようになる方法等の提案を検討した。また、市内の工場から出る廃材を利用してハンモックを製作し、特別養護老人ホームに設置するなどの活動を行った。市民の方々とワークショップを通して、かつての八潮市の姿を伺うなど、100年運動と市民がどのようにコラボレーションできるかなども探った。

フィールドワークプロジェクト

Fieldwork Project

2008.5.31 - 9.15

やしおのツカイカタプロジェクト

"Yashio no Tsukaikata" Project

2011.4 - 2013.3



▲フィールドワークから見つけたリノベーションできそうな場所

八潮の魅力を最大限に活かす

これまでの100年運動の活動で八潮ならではの魅力的な資源を数多く発見した。テーマを絞り、現地調査・歴史調査などを行い、これらの八潮らしい魅力を最大限に活用し、リノベーションする方法を提案した。

会所橋

Kaishobashi

2011.12-2012.3



▲会所橋 (かいしょばし) 竣工写真

昭和用水路に休憩スペースをつくる

かつて八潮の街を潤し、人々を繋いでいた用水路。現在では雨水を流す側溝になってしまい、市民から疎遠になってしまった。八潮に特徴的なこの敷地に橋を架け、周辺に緑を植えることで、休憩スペースを設えた。

きおくのまち WS in 八潮

Kioku no Machi WS in Yashio

2012.10.28



▲大学生と周辺住民による WS の様子

次代へ繋ぐ昭和遺産『パルコ通り』

きおくのまち WS では、パルコ通りおよびその周辺の模型を作り、やしお市民祭りにおいて周辺住民にヒアリング調査を行った。商店街ができる前までの思い出から最近の状況まで、幅広い意見を集めることができた。

2011

会所橋
Kaishobashi

2011.12 - 2012.3

やしおのツカイカタプロジェクト
"Yashio no Tsukaikata" Project

2011.4 - 2012.3

- 水辺
- ・あまみず丘
- ・用水路タウン
- ・水辺のカウンター
- ・水の記憶 ～中川のおはなし～
- 防災
- ・防災ビニルハウス
- ・フラワーハザードマップ
- ・ペイント倉庫
- ・つたそうこ
- コミュニティスポット
- ・仮設トイレ
- ・高架下コミュニティ
- ・下妻街道周辺バス停整備計画
- ・ホールコミュニケーション

2012

きおくのまち WS in 八潮
Kioku no Machi WS in Yashio

2012.10.28

やしおのツカイカタプロジェクト
"Yashio no Tsukaikata" Project

2012.4 - 2013.3

- 水辺
- ・つりばー+
- ・ピクチャーウインドウ
- ・サクサクコミュニケーション
- ・浮島ピオトープ
- 昭和遺産
- ・ヤシオ de ドマ
- ・ロマン横丁ヤシヲ
- ・楽がき
- ・パルコ屋号通り
- 工場
- ・八潮工場図鑑
- ・工場カードマップ
- ・バスカグ
- ・藍染ハンモック

2013

水辺カウンター
Water Side Counter

2012 - 2014.5

ハンモックプロジェクト
Hammock Project

2013.7 - 2013.11

2014

街の記憶展
"Memories of Town" Exhibiton

2014.8.24

ハンモックプロジェクト
Hammock Project

2013.7-2013.11



▲実際に完成したハンモック

廃材を利用したハンモック

八潮市内にある染め物工場から出る廃材を利用してハンモックを製作。市民も利用しやすいような架構を各大学が考え、特別養護老人ホームにプレゼンを行った。学生自らがハンモックを編み、架構も製作し、施設の庭に設置した。

水辺カウンター
Water Side Counter

2012 - 2014.5



▲水辺カウンター 竣工写真

水辺カウンター

八潮市内の水辺空間には、フェンスによって囲われ、市民が近寄りにくい所となっている場所もある。水辺を散歩する人、近くの住民、釣り人などがとどまり交流できる水辺空間となるように、カウンターを設置した。

街の記憶展

"Memories of Town" Exhibiton

2014.8.24



▲「街の記憶展」会場

今と昔をつなぐ「記憶」の展示

パルコ通り商店会の夏祭りで、パルコ通りの模型と各店舗の写真を紹介する「街の記憶展」を開催。さらに、商店会加盟店のガイドブックも作成した。八潮の昔と今をつなぐ意義深い展示となった。

八潮ならではの街のリノベーション

八潮には、まだ活用されていない魅力的な場所や空間が多く存在している。そこで、八潮で暮らすことがもっと楽しく、豊かになっていくように、それらの場所をリノベーションする提案を行った。

5大学の市内調査の内容をまとめ、「水辺」、「防災」、「コミュニティスポット」の3つのグループに分かれて、それぞれのテーマに基づく提案を行った。



▲5大学による市内調査

▲提案内容を実際に制作し検討した

防災

市内の防災倉庫や災害記録を調査し、普段意識されない防災倉庫の改善や、八潮らしい防災の方法を考えた。防災に繋がる施設を日常的に使用することで、市民にとって防災が身近になるようなアイデアを提案した。

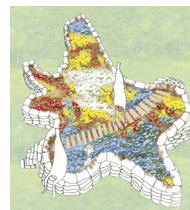
■防災ピニルハウス

即効的な空間の確保と地域密着性に注目し、ピニルハウスに被災時・被災後に求められる機能を配置する。



■フラワーハザードマップ

市民と一緒に土のうで八潮の形の花壇を作る。花の色は水害ハザードマップを示している。



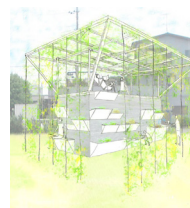
■ペイント倉庫

市民の防災意識を高めるきっかけとして、既存の防災倉庫に防災に役立つ情報をペイントする。



■つたそうこ

防災倉庫の上にパーゴラを取り付け、ワイヤーを降ろす。そこに蔦をからませることで、倉庫の使われていない面に居場所を作る。



水辺

中川や葛西用水の水辺は、八潮の特徴的な資源である一方、水質などの環境的な問題を抱える場所でもある。そこで、市内の水路に対して水質調査を行い、様々な水辺に対する活用方法を提案した。

■あまみず缶

雨水を溜めるタンクを設置し、散水や水やりを使用する。また水路に雨水を流すことで、水質を改善する。



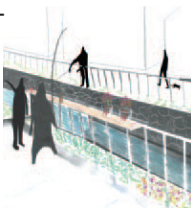
■用水路タウン

水の流れていない用水路に屋根を架け、子どもたちの遊び場や、人々を繋いでいく役割をもたせる。



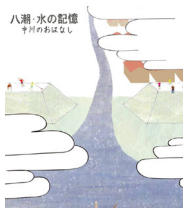
■水辺のカウンター

水路のフェンスにカウンターを設置することで、散歩する人や釣り人が留まることのできる場所ができる。



■水の記憶 中川のおはなし

堤防を散歩やランニングで利用する人が、中川の歴史や昔話＝『水の記憶』を知るためのリーフレットを制作する。

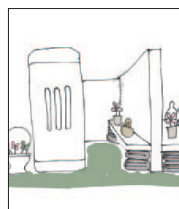


コミュニティスポット

バス停・公衆トイレ・公園・高架下などは、住民同士のコミュニケーションの場となる可能性がある。これらを有効活用し、市民が親しみやすい空間へと改善するため、提案内容を試作しながら検討した。

■仮設トイレ

マイナスイメージが強い公園の仮設トイレを、大切に使用してもらえるように愛着をもてるデザインを考えた。



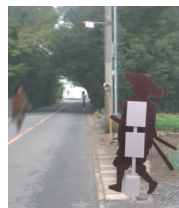
■高架下 コミュニティ

柱やフェンスや廃材などを使ったプランターで緑化する。プランターは取り外し可能で、市民が思い思いに育てていく。



■下妻街道周辺 バス停整備計画

市内を南北に通る、下妻街道の認知度をあげるために、江戸時代の街道のモチーフで道標やバスのサイン計画を行う。



■ポール コミュニケーション

水路の蓋も兼ねる広い歩道にある、車止めのポールやフェンスを家具化することで、人々の交流場所が生まれる。



八潮の魅力を再発見

これまでの活動で発見した『八潮ならではの魅力資源』。その中から、「水」、「昭和遺産」、「工場」の3つのテーマに絞り、現地調査・歴史調査などを行った。前年度から引き続き、これらの魅力を最大限に活かすために、「やしおのツカйкаタ」を再考した。



▲八潮の工場見学



▲まちづくりフォーラムの様子

水辺

前年度と同じテーマで活動。今回は、綾瀬川・葛西用水に重点をおき、水の歴史、水質改善、親水空間のあり方を考えた。現在の使われ方より楽しく、より水辺に親しめるような空間を提案した。

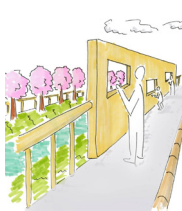
■つりばー+

川沿いに高さ・幅の異なる天板を設置。ベンチ、木琴のような音が鳴るもの、釣竿の固定ができるものなどをつくる。



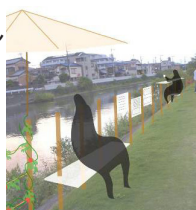
■ピクチャーウィンドウ

八潮の美しい川沿いの風景を、普段とは違う視点で眺めることで、より意識して感じることを目的とする。



■サクサクコミュニケーション

土手道にイスやテーブル、掲示板など様々なツカйкаタができる木製の柵を設置する。



■浮島ピオトープ

水との接点が少なくなった川に、親水空間をつくる。浮島が水質を浄化し、生態系を回復させる。

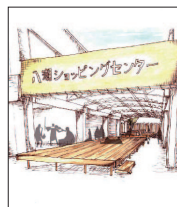


昭和遺産

市内に残る懐かしい昭和の魅力に着目し、商店街や建物などを調査。やしお市民祭りの来場者や、パルコ通り商店会とワークショップを行い、昭和時代の遺産と呼べるもののツカйкаタを提案した。

■ヤシオ de ドマ

閉鎖的な空間となっている八潮ショッピングセンターに土間をつくる。また、空き店舗を利用して、商店街の活性化へ貢献。



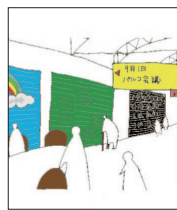
■ロマン横丁ヤシオ

八潮ショッピングセンターのアーケードに取り外し可能なブランコの設置。イベントや目的によってブランコの配置を変更する。



■案がき

空き店舗のシャッターをキャンパスに見立て、落書きアートを展示する。



■パルコ屋号通り

パルコ通り一帯に共通のデザインからなる屋号をかけ、通りに一体感と密度感を生み出す。



工場

八潮市で元気に活躍する工場に着目し、『工場革命×八潮 OPEN』というコンセプトで活動。工場見学で得た知識を活かし、市民の方や子どもたちに親しみをもってもらえるようなアイデアを提案した。

■八潮工場図鑑

特徴のある工場の情報を図鑑にまとめる。工場の活動の見えやすさレベルや工場を訪れた際に体験できる活動をアイコンで表示。



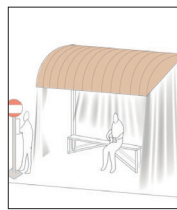
■工場カードマップ

あまり知られていない工場を、特に子どもたちに知ってもらうために、工場をトレーディングカード化する。



■バスカグ

バス停のベンチ、イスなどを八潮の製品や廃材でつくすることで、八潮の工場をより身近に感じさせる。



■藍染めハンモック

伝統工芸である藍染めとハンモックの自由度を活かし、野外での居場所をつくり出す。



水路の未来を考える

八潮の財産である「水路」は、市民に必ずしも良い印象を与えていない一面もある。

そこで、水路を活用するために、八潮市全域の水質調査を行った。



▲水路での水質調査



水路の歴史を伝える「会所橋」

何度もスタディを重ね、形やデザインを決定した。その後、どのように建てるかは作業しながら決めていった。材料は、補修などのメンテナンスがなく管理がしやすいものを使用し、草地側には、ワイルドフラワーをグラウンドカバーとして使用した。



▲モックアップの製作

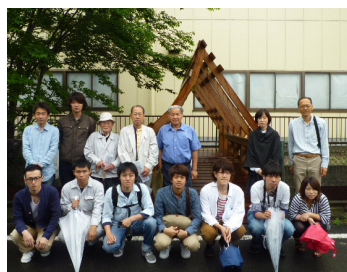


▲工事の様子

用水路の上の小屋のような形の休憩所

昭和用水路は、周囲より地盤が高く農業用水が引けない潮止地域に、中川から用水路をつくろうと、村民総出で工事して完成した歴史をもつ水路である。平成の始めまで利用されていたが、潮止周辺地域の宅地化が進み、農地が減少したことで役目を終えることになった。

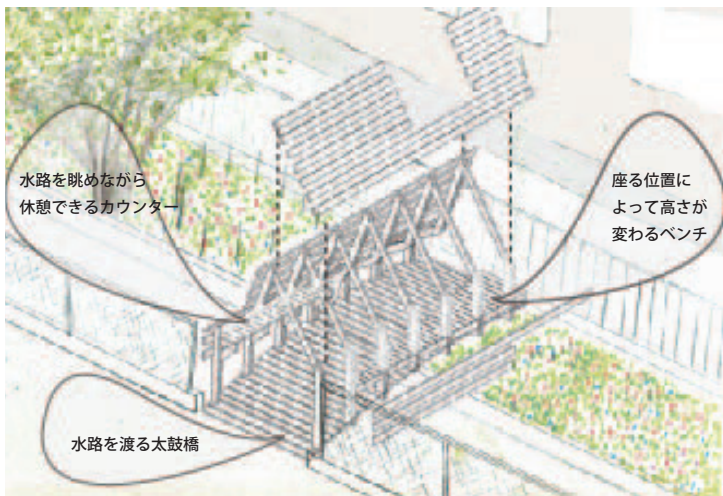
この歴史ある水路沿いに、楽しみながら一休みできるスポットとして、ベンチやカウンターをもつ休憩所を提案した。かつて水で街をつないでいた場所に橋をかけることで、八潮の歴史を感じ、人と人をつなぐ橋となる。



▲完成時の集合写真



▲内観



▲水班による提案



▲完成した会所橋

昭和の繁栄、街の形成を伝え、街のいいところを残す為に

昭和時代に生まれ、栄えた商店街→パルコ通り商店会。
今までの調査の中からパルコ通り商店会に焦点を当て、商店街周辺を対象に模型を作成。その模型を用いて、市民祭りの際にワークショップを行い、街の思い出や良かったところ、残していきたいところをマッピングしていった。これをきっかけに、パルコ通り商店会の方や市民の方たちと、より一層密接に関わることができ、新しい提案につながって行く出発点を得た。



▲様々な世代の方が参加したWS当日



▲完成した模型

パルコ通り商店会定例会に参加 ワークショップの報告

パルコ通り商店会の月に1度の定例会に参加し、模型を囲んで店主の方々にお話を伺った。
対話を通してかつての思い出をうかがうとともに、今後どういふコラボレーションができるかというビジョンを共有した。



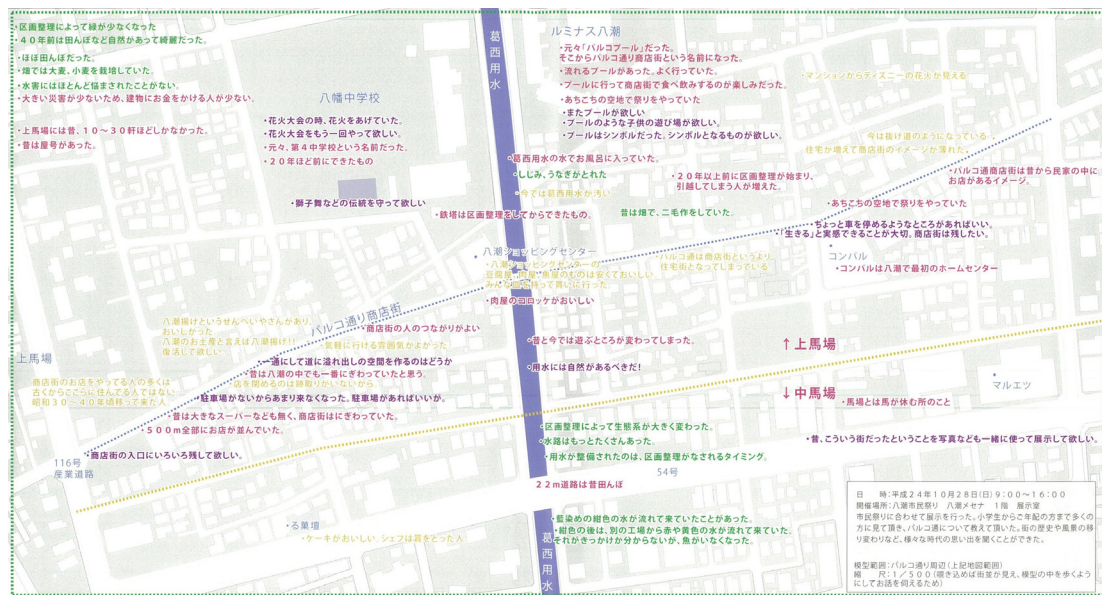
▲パルコ通り商店会でのお披露目(2012/11/07)

パルコ通り思い出マップ

聞き取り内容をまとめ、昭和・平成の思い出が詰まったマップを作成。

■凡例

- 青→名称
 - ・建物やお店の名前
 - ・街のランドマーク
 - ・〇〇さんの家 等
- 黄→平成の思い出
 - ・よく集まる場所
 - ・よく行くお店
 - ・好きな場所 等
- 赤→昭和の思い出
 - ・昔よく行っていた飲み屋
 - ・今はなくなったが欲しい物
 - ・かつての遊び場 等
- 紫→今後も残したい
 - ・築〇年の立派な建物
 - ・街のランドマーク
 - ・地元の伝統的な祭り 等



▲聞き取り内容をまとめた思い出マップ

廃材から新しい風景をつくる

八潮市は埼玉県第3位の工場数を誇る工業集積都市である。街を歩いても、あちこちから工場で働く人々の活動の様子を感じることができる。「工場班」は、これを八潮らしい風景と捉え、工場の活動が市民に伝わりやすくなるような提案を検討した。

そこで、染め物工場から廃材として出る布の端切れを使い、街に新しい風景をつくることを目指した。



▲八潮にある工場の地図



▲工場見学の様子



▲廃材を使った編み物

編み物ワークショップ

やしお市民祭りで、廃材の布を利用した鍋敷きや、ハンモックのネットをつくる編み物ワークショップを開催した。布の編み方は学生が研究し、とても丈夫なものとなった。



▲廃材を利用した編み物の例 編み方を変えることで様々な模様、形を編むことが可能

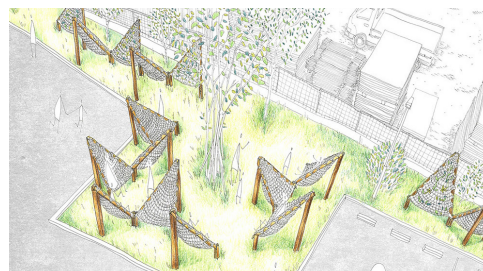


▲市民まつりでのワークショップ

地域の人々と交流するハンモック

市内の特別養護老人ホームから、施設の敷地内に、地域の人々が誰でも利用できる「みんなの庭」＝「公園」をイメージした空間をつくりたいという要望があった。

そこで、「工場班」が提案したハンモックを、敷地にジグザグに配置することで、地域の人々が集まるコミュニティスポットをつくるという仕掛けを提案し、2人掛けと3人掛けのハンモック型のベンチを作成した。



▲完成イメージ



▲スタディ模型



▲試作品を作成



▲組み立て作業



▲入居者と一緒に布を編む



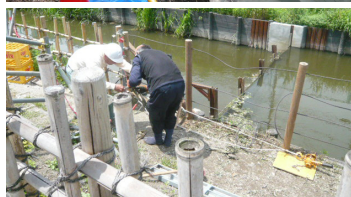
▲設置後の様子 楽しく自由に交流できる場が生まれた

水と人との距離を近づける場所づくり

古くより水に囲まれ、水とともに生活のあった八潮だが、時代の変化により水路は利用されなくなった。近年ではフェンスで仕切られたりコンクリートで護岸された水辺が目立ち、市民が近づきにくい空間となっている。そこで、親水空間を創出するために、「水班」より提案のあった水辺カウンターを葛西用水につくることにより、人々が水辺を眺め、釣りや生態観察ができる場とした。



▲「水班」の構想スケッチ



▲水辺カウンターイメージ

▲工事中の様子



▲完成した水辺カウンター 散歩の小休止やシティフィッシングを楽しむ場に

街の記憶展

パルコ通り商店会が主催する夏祭りにおいて、パルコ通りの模型を製作し、各店舗の紹介写真を展示した。模型は、八潮市内の紙工場に提供していただいた材料を使った。また、パルコ通りについての思い出や意見を来場者が自由に書き込める黒板を設置した。当日はたくさんの小中学生や地域住民が集まり、こうした人々とパルコ通り商店会の人たちをつなぐ展示となった。



▲パルコ通り模型の展示風景①



▲パルコ通り模型の展示風景②



▲展示小屋外観



▲地域住民に話を聞く学生

パルコ通り商店会のガイドブック

パルコ通り商店会夏祭りの準備を進めている中で、展示だけではなく、何か形として残るものをつくりたいという意見が出てきた。そこで、模型では伝えきれない細かい情報を載せた、ガイドブックをつくることに。学生が、連日パルコ通り商店会に出向き、一軒一軒インタビューして集めた情報を凝縮して、夏祭り会場に来場者に配布した。



▲パルコ通り商店会のガイドブック「PARBON」 ▲各店舗を詳細に紹介